

熊本・大分県中心に大きな被害

熊本地震

熊本県支部副代表 村田洋子さんの報告

着の身着のまま公園に避難

全国からの励ましに感謝

4月14日午後9時26分、ドーンという地響きと共に今までに経験した事もない突然の大きな揺れ、食器が飛び出してガチャガチャと割れる音や色んな音が響き、慌てて外に飛び出しました。次の日も余震は続いており、玄関の傍に布団を敷いて眠りについていたら、16日午前1時25分、ドドーンという地響きの後、前回よりも激しく長い揺れ、いきなり停電となり、自宅にいた私は着の身着のまま外に飛び出し、そのまま近所の人達も一緒に近くの公園に避難しました。門が倒れていたり、瓦が落ちていたり、凄まじい光景を目の当たりにしながらやっとの思いで辿り着きました。手にしていたのは、携帯電話だけでした。夜が明けて自宅に帰り、テレビに映し出された被災地の目を覆いたくなるような光景を見て、瓦が壊れたり、タンスが倒れたりしている我が家でも、まだ自宅で過ごすことができるだけでも贅沢さを感じてしまいました。

熊本県は、台風や洪水の災害は何度か経験していましたが、阪神・中越・5年前の東日本の大震災の悪夢が、まさかわが県で起こるとは夢



会員宅の様子
食器棚が倒れたり、テレビや冷蔵庫も倒れていた（左）
散乱した中から必要なものを探す会員（上）
（4月22日、村田さん撮影）

にも思っていませんでした。ドーンと突き上げるような余震が現在も続き、精神的にも恐怖心が蘇り、肉体的にも慢性の揺れが生じているような状況です。

震災直後から、「家族の会」本部はじめ各県支部からの温かいメッセージや励ましの言葉に、全国組織の強さを改めて感じているところです。全国のみなさま、ありがとうございます。

（熊本市中央区在住、4月24日記）

被災した会員の声

- 要介護2の夫と車中泊をしていて、配給の水とおにぎりをもたらすため車の中に夫を待たせてカギをかけて行った。順番が来て事情を説明しても「本人がいないと1人分しか渡せない」と言われた。悲しくなったし、腹も立った。
- 要介護1の夫(52歳)と近くの小学校に避難していて、頻りにトイレにいきたがり、何回もついていったので一人で行かせたら、帰れずに外に出てしまい、パトカーで連れて来てもらった。その後は、ヒヤヒヤしながら自宅での生活。
- 週5日のデイサービスを「週1日にしてくれ」と言われた。妻と一緒に家片付けもできないし、配給ももらいにいけない。
- 要介護5の妻と一緒に避難は難しく、自宅で過ごした。不安になったり、悲鳴をあげたりするが、どうすることもできない。デイサービスも被害があり、24時間介護生活を送ることになった。

「熊本地震」被害会員への義援金をお願いしています

郵便振替口座

口座名義：家族の会義援金

口座番号：00980-4-146638

熊本地震義援金協力者

（敬称略、所属支部別、入金日順）

（現金入金者も含む、4月25日まで）

【北海道】金子昭紀【青森県】石戸育子／泉早苗
【岩手県】小野寺彦宏【東京都】長谷川和世【神奈川県】杉山孝博【新潟県】原等子【福井県】坂田稔
【京都府】京都府支部つどい参加者／竹中織恵／別所美奈子／安田弘【大阪府】浜名猛、【兵庫県】谷村忠之【奈良県】正楽忠司／松本律子／木村秀子【福岡県】内田秀俊、樋口かをる

介 護 保 険
 制 度 改 定 が
 与 え た 影 響 2
(全4回)

酒井 秀明

やすらぎ福祉会



●プロフィール●

1984年4月 公益社団法人石川勤労者医療協会 城北病院
 に医療ソーシャルワーカーとして入職

1994年 医療法人やすらぎ会 金沢リハビリテーション
 病院事務長を経て、2008年より社会福祉法人や
 すらぎ福祉会に異動。現在に至る

—特別養護老人ホームの場合—
生活の不安と待機者にすまなれない層を生んだ改定

昨年の4月と8月に実施された改定が、とりわけ特養に与えた影響について報告します。

▶ **特別養護老人ホームの重度化**

昨年4月から認知症などの特別な理由がなければ要介護度3～5でないと特別養護老人ホームに入居ができなくなりました。入居待機者52万人のうち要介護度1、2は34%にあたる18万人になります。全国老人福祉施設協議会の調査からは、在宅介護が厳しい中で特養入居を希望しても要介護度1、2で入居待機者にすまなれない要介護者が、安心して暮らし続けられない困難を突き付けられている実態が明らかになっています。

また、特養の重介護者の受け入れに当たり要介護度4、5の新入居者の比率を高くするよう求められるようになりました。基

本報酬が引き下げられる中、施設としては経営的にも重介護者の入居受け入れが重要になっています。これらの改定で要介護度3での特養入居はさらに狭き門となり、同時に特養の重度化が介護職の労働環境をますます厳しくしています。

▶ **補足給付の要件厳格化と多床室**

特養入居者で、住民税非課税の場合（1段階～3段階）、「補足給付」として部屋代と食費の補助があります。昨年8月からその補足給付が受けにくくなりました。①単身者で1000万円を超える預貯金等を保有②配偶者が課税対象一の場合は対象外とされたのです。

右表は、やすらぎ福祉会の二つの特養の改定前と改定後の課税段階の変化を表したものです。法人全体で15名が補足給付をは

早川一光
92歳語る



大病を経て、分かったこと

京都の良さ、地方の良さ

遠いところからようこそ京都へ！先日おいしい竹の子をいただいた。折角だから皆さんにお土産に…と思ったが、味付けが大変だろうと（気を利かせて）やめた！京の都、その京都を、中には竜宮城のようにいう人もある。でもほんとは、ちょっとにぎやかなだけ。人通りも消えて寂しいと言われる地方でも、生き活きと人々は生

ずされ第4段階になりました。

さらに、補足給付を申請する際、預金通帳のコピーの添付が求められました。多くの入居者家族は、「プライバシーの侵害だ」と怒り心頭です。預貯金の多い少ないではなく、何に使っているかを見られることが許せないのです。生活保護申請ですらコピーを求めているのですから。

＜補足給付から外された方の例＞

本人は非課税ですが、世帯分離している夫が課税対象のため補足給付から外されました。○二人の年金は合計20万円、○これまでの費用は月63,811円、○昨年の8月からは131,011円、○費用は2倍となり年間80万円の負担増。

ご主人は、「今の妻や自分の状態では家に連れて帰って介護なんて出来ない。高くなっても払うしかない。これからどうしていけばいいのか。人生早く終わらせないといけない」と将来の生活に不安を募らせます。補足給付は、自分の年金で支払いを可能にするための制度だったはずですが、それを外されて夫婦としての生活の破綻を招きかねない状況が起こっています。やむを

得ず、何十年連れ添った夫婦が離婚したという話もあるようです。

同時に特養の多床室の負担が(第4段階で)1日380円から850円に引き上げられました。

その上、今年8月からは障害年金や遺族年金の非課税年金も収入として合算されます。

▶ 利用料2割負担の影響

補足給付の見直しだけでなく、昨年8月から一定の所得がある場合(年金収入280万円以上)、利用料が2割負担に引き上げられました。ある課税世帯の方の場合、8月から利用料の2割負担と部屋代の引き上げが重なり、7月まで月75,930円だった費用が、8月から108,960円と、年間40万円の負担増になりました。「収入や預貯金があるといっても今まで必死に働いて得たお金で、介護保険料もしっかり払っているのに、おかしい」と憤りを隠しません。

特養待機者は52万人、わずか5年で10万人増えました。高齢者の貧困が広がる中で特養以外の選択肢がないことの現れです。

介護の社会化の理念のもと、こうした人の生活を保障する制度にしなければならぬと思います。

やすらぎホーム

	2015年7月31日現在		2015年8月1日現在	
	人数	%	人数	%
1段階	4	3.9%	4	3.9%
2段階	51	49.5%	47	45.6%
3段階	21	20.4%	17	16.5%
4段階	27	26.2%	35	34.0%
合計	103	100.0%	103	100.0%

なんぶやすらぎホーム

	2015年7月31日現在		2015年8月1日現在	
	人数	%	人数	%
1段階	1	2.6%	1	2.6%
2段階	22	56.4%	17	43.6%
3段階	13	33.3%	11	28.2%
4段階	3	7.7%	10	25.6%
合計	39	100.0%	39	100.0%

きている。遠来の人があればすぐに寄り集まり、地元のもの振舞ってくれる。京都には京都の、地方には地方の京都となんら変わらない良さがある。この土地に住んで良かったと思える「むら」を創って欲しい。「しゅうらく」を守って欲しい！これを言いたい！



今回の語りのレジュメにコピーされた早川先生宅の桜

満開の桜にことよせて

おととい京都も桜が満開になった。ぜひ一度我が家で皆さんと花見をしたい！

この福祉会館のすぐ脇を堀川が流れている。あの堀川が実は昔は鴨川だったとのこと。その川にもきれいな桜が咲いた。

「来年も咲くわいなあ…」とつぶやいたら「先生！来年も見られると思うか?!」とビシッと言われた。

死線をさ迷いながら生きている自分にも庶民は厳しい。弱音を吐くとビシッ言われる。一日一日が死ぬことの準備、そう僕に教えてくれる先生は市民なんです。

(聞き書き：田部井編集長、撮影：鈴木森夫理事)



会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしております！

うれしい、悲しい、怒ってる、その気持ちをお届けください。あなたと同じ思いで、共感される方、励まされる方がきっとおられます。

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheimer.or.jp

ぼ〜れぼ〜れ3月号
「どう考えればいいのでしょうか」を読んで

幸福に出会えますように

●岡山県 Aさん 男性

私も要介護3の母の介護を始めて4年程になりました。Dさんの「少しでも楽しくこれからの時間を過ごすためにも、何をしたらいいのか、どう考えればいいのか気づきを得たい」という言葉に、ほんの少しでもお力になればと思い、お便りを出します。

PHPという雑誌の4月号の片柳弘史という山口県の神父さんの書かれた「すべては本当の自分になるために」という中に私の心に残った言葉がありましたので、紹介させていただきます。片柳さんは宮沢賢治の言葉を引用し、次のように述べています。「険しい道を苦しみながら登るとき、私達はそれを不幸だと感じるかもしれませんが、でも、その道だけが本当の幸せに続く道だとしたら、その道を通らなければ幸せにたどりつくことができないとしたら、その苦しみは果たして不幸なのでしょうか」と。

Dさんとお母様がこれから進む、おそらく険しい道の先で、本当の自分になれて、幸福にも出会えますようにお祈り申し上げます。

将来に不安

●滋賀県 Bさん 70歳代 男性

4年前にアルツハイマー型認知症と診断された妻は要介護2です。治ることのない病気で、徐々に進行中。将来どうなっていくのか、どう介護していったらいいのか非常に不安。現在地元の「男性介護者のつどい」に参加し、勉強中ですが、もっと幅広く知りたいです。

妻は足は丈夫で、家を出て行ってしまうのでまったく目が離せない。トイレに行けるが、水は流せない。風呂は2〜3日おきに入るが、石鹸で洗えない。どんな物でも見えないようにしまい込むので、毎日宝探しをしている。

3人の姉から学んだ認知症

●新潟県 Cさん 60歳代 女性

認知症という病の様々を3人の姉から学んでいます。幸い(?)にして、同居した姑は認知症にはならないまま死を迎えました。3人の実姉達は、各々の環境の中で次第に認知症が重くなり、上の姉2人が亡くなりました。3番目の姉は最も重い状態で医師にも薬は何もないと言われ、ただの一時も目を離せません。デイサービスに通いながら、何とか家族がみていますが、限界に近いと感じます。

私は、聞き役に徹しているより手伝えることもありません。身体が元気で、最も重い状態と施設の人に言われるとか…妹として切ないです。



任意後見人がいると

●埼玉県 Dさん 60歳代 女性

三女が長女と次女（私）との話し合いをすることなく、85歳の母の任意後見人になっていました。母の調子が悪くなって、入院から、現在の介護施設に至るまで三女の代理人を通して許可を得ないと、専門の医院に連れて行くなどの行動ができません。母は要介護3ですが、認知症の専門医に診察を受けさせたいのですが、出来ない状況で困っています。

おかしい事ばかり言う母

●鳥取県 Eさん 70歳代 女性

母を介護していた時、おかしいことを言っていました。どうしてよいのかわからなくて大変困ってしまいました。

最初は、「虫がいる。早くとってくれ」「ほら、そこにいるがな、早くとってくれよ」と申します。虫はおりません。「虫なんていないよ」と返すと、「そこにおるがな、見えんだが」と怒り出します。またある時は、「人が大勢きとんなるが、なんでだ?」「誰もいないよ、私だけだが」そして、ついには、食事をベットに運んでいくと、「毒が入っているんじゃないか?私は食べんよ」と、いくら否定しても言い張ります。

どうしてこんなことになってしまったのかと、悲しく、情けなくて、夜も眠れなくなってしまいました。「ぼ～れぼ～れ」に何でも相談しなさいと書いてありましたので、電話しました。「それは、お母さんが言っているのではなくて、病気が言わせているんだから、心配しないで、しばらくその場を離れていなさい。そうすれば、忘れてしまって普通になります」とアドバイスいただき、気持ちが楽になりました。その母も5年前に亡くなりました。

今は元気がなくて

●千葉県 Fさん 60歳代 女性

現在71歳の夫の症状に気づいたのは14年前でした。現在は要介護3です。いろいろありすぎて、今は書く元気がありません。精神的とにかく消耗していて、疲れて疲れて、眠くて、家事も何もする気が起こりません。主人に「バカモン!」と怒られるたびに落ち込み、自分を取り戻すまでに時間がかかります。

どうしていいか不安

●徳島県 Gさん 70歳代 男性

妻は1年半前にアルツハイマー型認知症と診断され、まだ初期の状態です。これから先どうしたら良いのか不安です。交通事故を起し、免許証を返納しました。私自身もうつ状態で30年前から薬を飲んでます。一人で背負いこまずに、人に協力してもらっていきたいと思っています。

別人のような夫をみていて…

●宮城県 Hさん 60歳代 女性

早くアルツハイマー型認知症を治すお薬や治療法ができないものかと、毎日神様にお祈りしています。早く、早く…

介護の現場で働く人たちのご苦勞、家族のとまどい、こんなつらい毎日はありません。人間はいつかは死を迎えますが、人間として人間らしく生きたいです。アルツハイマー型認知症の主人をみてみると、主人ではなく別人のようです。胸が痛み苦しく辛い毎日です。

政府でなんとか、早く力を入れて病気が治るように研究を進めないと、世の中が変わってしまいそうで心配です。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。